

実施報告書

HT26192

【プログラム名】命を産み出す子宮とそれを蝕む病 ～原因からその予防法を一緒に考えてみよう～



開催日：平成26年8月2日(土)

実施機関：奈良県立医科大学  
(実施場所) (基礎医学棟 5階小講義室)

実施代表者：小林 浩  
(所属・職名) (産婦人科・教授)

受講生：高校生女性19名

関連 URL：<http://www.naramed-u.ac.jp/~gyne/>

【実施内容】

① プログラムの留意点および工夫点

主に奈良県内の女子高校生を対象に、最新の超音波診断装置を用いて子宮の中で発育するダミーの胎児を観察することにより、生命の尊さを学ぶための実習を企画しました。

1) 生命の誕生に重要な臓器である子宮および卵巣の生理と解剖に関する学習をするため、できるだけ視覚に訴えるよう絵を用いて説明し理解して頂くように工夫しました。また、紙粘土を用いて、子宮と卵巣を自分自身で再現して頂きました。

2) 妊娠中の胎児の状態を、赤ちゃんの動いている様子や成長の様子がよくわかる超音波画像を用いて紹介しました。更に、実際の超音波を用いて自分で体験してもらい、子宮の中のダミーの胎児を観察し、生命誕生やその神秘さに一層興味を持っていただけるよう努力しました。

3) 発がんの原因に関して学びました。特に20-30歳代の女性のがんで最も多い子宮頸がんについて、その原因や予防を学習しました。そして、大学の病理学実習で用いる顕微鏡を用いて、正常子宮頸部組織の癌化していく過程を実際の病理スライドにて観察しスケッチすることにより理解度を高めていただく努力をしました。

4) 2013年に子宮頸がん予防ワクチンは定期接種としての位置づけはそのままに、接種の積極的な呼びかけを一時中止することとなりました。子宮頸がん予防ワクチンに関してどの程度知識があるのか、また、この年代の女性が、今回の生命の尊さを学ぶことにより、胎児をはぐむ子宮に対する個々の思いに変化が起こるかを知るために、講義と実習を受ける前と受けた後で、子宮頸がんに関するアンケート調査を行いました。

講義の中で対話形式を取り入れ、積極的にプログラムに参加していただくように促しました。

実習は、一人の受講生に多くの実習体験時間が取れるように、2グループに分けて実施しました。また、顕微鏡の使用方法を参加者1名当たり1人の指導者がつくように実施担当者、協力者を配置しました。

② 当日のスケジュール

10:20-10:50 開会式(代表挨拶 自己紹介 オリエンテーション 科研費の説明 前半アンケート記入)

10:50-11:10 講義1. 子宮および卵巣の解剖と生理機能

11:10-11:20 ミニ実習. 子宮および附属器の再現(紙粘土による)

11:20-11:30 休憩

11:30-12:10 講義2. 妊娠中の赤ちゃんの超音波画像の供覧

12:10-14:30 昼食と休憩

14:30-15:00 講義3. 子宮がんの原因と予防

15:00-15:20 Coffee time

15:20-15:40 実習1. 超音波シミュレーション機器による胎児確認

15:40-16:10 実習2. 顕微鏡観察

実習1と2はグループに分け交互に実施

16:10-16:40 ディスカッション

16:40-16:45 アンケート記入

16:45-17:00 修了式(未来博士号授与 代表挨拶)

### ③ 実施の様子

開会式の風景です。(左)主催者の小林より開会の挨拶が行われております。(右)参加者全員に自己紹介をしていただきました(やや緊張した表情です)。



講義の風景です。ミニ実習では参加者の皆さんが紙粘土を用いて子宮と附属器の再現を行っています。



超音波の実習(左)と昼食時(右)の風景です。



未来博士号授与式の風景(左)と最終記念写真(右)です。お疲れ様でした。



### ④ 事務局との協力体制(奈良県立医科大学法人企画部研究推進課)

- 1) 独立行政法人日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正等をして下さいました。
- 2) 委託費の管理、支出報告書類の内容確認・提出をして下さいました。
- 3) 受講生を募集するため、近隣高校への呼びかけをして下さいました。
- 4) 会場の準備と後片付け及び当日の運営のサポートをして下さいました。

### ⑤ 広報活動

- 1) 当教室のHPおよび同日開催された奈良県立医科大学オープンキャンパスのHPを活用しました。
- 2) 広報用ポスターを作成しました。(受講生募集時のポスター参照)
- 3) 奈良県内の高校の校長先生宛に、奈良県立医科大学オープンキャンパスの広報に同封し、ポスターと実施案内状を郵送しました。

### ⑥ 安全配慮

- 1) 実習時の安全確保のため受講生2名に対して1人の割合で女性医師と女子学生をつけました。特に、顕微鏡実習時には参加者1名当たり1人の指導者がつくように実施分担者、協力者を配置しました。
- 2) 日中に行き暗くなる前に帰宅させました。
- 3) 受講生と実施協力者(医学生)を対象にレクリエーション保険に加入しました。

⑦ 今後の発展性、課題

本企画への出席者全員がアンケートの中の質問「女性における子宮の大切さに関して、企画後ご自身の心境に変化ありましたか」において、「子宮は以前自分が思っているより大切」と感じて頂けました。子宮の大切さを知って頂くことにより、各個人が子宮を失うような疾患(子宮頸がん)からいかに予防したらよいかが発見できたと思います。今回の参加者の中で、すでにワクチンを接種した人が14/19人(73.7%)に達していました。しかしその動機は、親に勧められて接種した人が最も多かったですが、子宮を守るためにワクチン接種が重要と判断した人もいました。また、現在、接種していない人でも、今後、接種を希望する人が3名いました。子宮頸癌の原因はHPVであり、予防可能であるということを、すでに認識している人も12/19人(63.1%)おり、この病気が高校生の中でも理解が浸透してきていることがわかりました。以上より、今回のプログラムのような啓発活動の重要性を実感しました。また、子宮頸がんやそのワクチンに対する知識は、能動的ではなく、親、テレビや高校から受動的に情報を得ていることも確認できました。そのため、予防法が確立している子宮頸がんの知識を普及するために、高校にて家族(父母)も参加できる形式の講演会を実施する必要があると思われました。

今回、広報活動を熱心に行った結果、20名の募集に対して、20名の応募がありました。当日1名が欠席となったため、実際の参加者数は19名でした。募集をかけてから、速やかに20名の応募があり、募集締め切りとなりました。今後は、募集定員数をもう少し増やしてもよいのかなと思いました。

【実施分担者】

|        |              |
|--------|--------------|
| 川口 龍二  | 医学部・学内講師     |
| 吉元 千陽  | 医学部・助教       |
| 小池 奈月  | 医学部・助教       |
| 重光 愛子  | 医学部附属病院・診療助教 |
| 岩井 加奈  | 医学部附属病院・医員   |
| 森岡 佐知子 | 医学部附属病院・医員   |
| 杉本 ひとみ | 医学部附属病院・医員   |
| 水野 文子  | 医学部・講師       |
| 岡本 希   | 医学部・講師       |
| 尾形 絵美  | 医学部附属病院・秘書   |

【実施協力者】 \_\_\_\_\_ 4名

【事務担当者】

村上 真也 法人企画部研究推進課・主査